



熊本地震被災女性・母子 支援活動レポート

2017年10月1日発行
発行人: 勝部 まゆみ

〒162-0843
東京都新宿区市谷田町1-10
保健会館新館
TEL 03-3268-5875
FAX 03-3235-9774

<https://www.joicfp.or.jp/jpn/>

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固くお断りします。

熊本地震 被災女性・母子 支援活動レポート

2016年4月－2017年3月



もくじ

01 被災女性・母子の状況

P3



02 支援の内容

P4-5

- ① 避難所等での性被害や性暴力防止啓発活動 4
- ② 心の癒しギフト 4
- ③ 助産師の家庭訪問による産婦・乳幼児支援活動 5
- ④ 母と子の癒し交流サロン活動 5

03 熊本の声

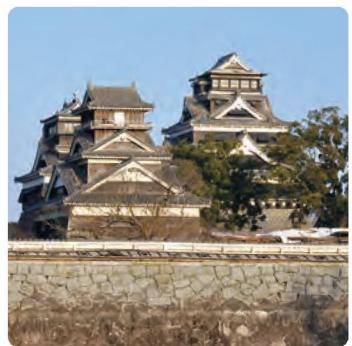
P6-9

- ① 交流サロンにて 6
- ② 助産師・サポーターの声 8

04 これからのために

P10

- 支援企業・団体 11
- 収支報告 11



01 被災女性・母子の状況

2016年4月14日の前震と16日の本震2回、震度7の直下型地震が熊本地方に発生しました。ほぼひと月後の5月中旬頃までには震度1以上の余震が1500回に達し、過去最多を記録しました。この状況のもとで、連日の地震に怯えながら過ごしていた産後1ヶ月前後の女性を対象に、産褥期のうつに関する調査が熊本市内の病院で実施され、その結果、産後うつになるリスクが高い母親が震災前の通常期に比べ2倍に増えたという報道が5月中旬にありました。

5月の連休明けから、熊本県助産師会は熊本市の「ここにちは赤ちゃん事業」の委託事業を受け、母子訪問を再開しました。母子の訪問で寄り添う支援を行いつつ、妊娠中の女性や出産後の乳幼児を抱えた母親や家族が被災後どのような状況にあったのか、どのようにしてどこに避難したのか、災害に対しどう乗り越えてきたのか、被災後の妊娠と乳幼児を抱えた母親の避難行動と母子の状況についてインタビュー調査を行いました。

200数名の女性へのインタビュー調査の結果、68%が前震の前日13日までに出産し、出産直後に被災していました。5%が前震と本震の3日間に地震に怯えながら出産し、そして、27%が被災時に妊娠中でした。女性たちの避難状況を見ると、被災時に妊娠中だった女性は、前震後に29.7%、本震後に42.1%が車

中へ避難し、本震後は42.1%が実家へ移動しているものが最も多くいました。出産後の母子の避難状況は、46.6%が本震後実家へ移動し、次いで34.1%が車中で避難し、16.1%が友人宅や親戚宅に移動、13.7%が避難所でした。

また、地震後の女性たちの様子を見ると、45.8%がストレスにより不安やイライラ、疲労を感じていました。ライフラインの復旧の遅れ、乳幼児が泣きぐずることで避難先に居づらくなること、避難先の友人宅や親戚宅での気遣い、育児の協力者と相談者がいないこと、余震の不安などなど、多くのストレスを抱いていました。

過去に発生した阪神・淡路大震災および東日本大震災の調査では、避難所は母子にとって過酷な状況で、3日目頃から避難所で母子の姿を見かけなくなつたと報告されています。熊本地震でも同様に、避難所での埃っぽさのほか、授乳スペースがなく、乳幼児の泣き声で肩身が狭い思いをすることなどから、妊娠や産後の母子による避難所の利用は多くありませんでした。反面、日常交通手段として自家用車が多く用いられている熊本では、車中での避難生活が多く、日中は移動し、宿泊駐車場には夜戻るケースが多くありました。そのため、支援対象である被災女性や母子の所在を把握することが難しく大きな課題でもありました。

02 支援の内容

1 避難所等での性被害や性暴力防止啓発活動

災害をきっかけに発生する性被害や性暴力を防止するために、熊本市男女共同参画センター（はあもにい）との連携協力により、避難所や避難先での「DV・性被害防止啓発活動」のチラシを作成し、各避難所での注意喚起を促しました。同時に、熊本地震・被災女性支援サイトを立ち上げ、女性たちがいつでも受けられる相談窓口の情報を開示しました。



2016年
4月
現地調査



災害発生直後、各避難所では女性たちのプライバシーへのケアを配慮する余裕がなく、後手後手になりやすい状況にあるため、注意喚起を促しました。



2 心の癒しギフト

緊急支援物資ではなく、被災者が笑顔になるコミュニケーションギフトとして、企業の協力を得て、水のいらないシャンプー、授乳中の女性にも優しいハーブティなどをプレゼントしました。

助産師の母子家庭訪問時や母と子の癒し交流サロン活動時に、近況を伺いながらお渡しました。



2016年
5月
心の癒しギフト



3 助産師の家庭訪問による産婦・乳幼児支援活動

地震発生後、産後うつになるリスクが高い女性は震災前の通常期に比べ、2倍に増えたという調査報道を受け、産後うつの深刻な状況に至らないよう予防するために、スクリーニングされた女性たちを対象に、熊本県助産師会の協力による助産師新生児家庭訪問活動を通じ、育児や子育てに関する個別相談、授乳指導（乳房マッサージ）などを行いつつ、寄り添いながら母親を孤立させない、心的カウンセリングケアを行い、必要に応じて複数回の家庭訪問を実施しました。

産婦・乳幼児
支援活動
実施人數計 417人

・家庭訪問人數計 127人
・集団健診人數計 290人



「あの時、助産師さんが家庭訪問に来てくれてなかつたら…。今の明るい自分があるのは助産師さんのおかげです」



2016年
5月～
新生児家庭訪問、
産婦への心的ケア

4 母と子の癒し交流サロン活動

連日の余震に怯えながら過ごす日々の中で、育児や他のさまざまな不安から閉じこもりがちな母親たちを対象に、地元の子育て支援団体のネットワーク協力のもと、交流サロンを開催しました。交流サロンの活動を通じ、母親たちが、自分が置かれている状況は自分ひとりではないことを認識し、ママ友たちとの交流を深め、社会への活動参加に前向きに踏み出せるように促しました。



2016-2017年
5月～1月
癒し交流サロン活動



ママタレントのくわばたりえさんを迎えたトークでは、参加した女性たちが今までの辛いことを忘れ、笑顔になられました。



22回にわたるさまざまなテーマの交流サロン活動に多くの方が参加しました。はじめは涙ぐんでいた人もサロンで癒され、徐々に笑顔を見せ、明るい表情に変わっていました。



母と子の癒し交流
サロン活動 22回開催

参加人數計 499人

03 熊本の声

1 交流サロンにて

声を上げられずに頑張っていた
母親たちを応援したい。

「母と子の癒し交流サロン」を開催し、延べ499名が参加しました。

交流サロンの内容

開催日	開催場所	主な活動内容
2016年 5月26日	さくらんぼ保育園(熊本市東区広木町)	カラーボトルからひも解く遊びの癒し交流サロン
6月1日	さくらんぼ保育園(熊本市東区広木町)	長い避難生活から久しぶりにゆっくり話せる母と子の癒し交流サロン
6月21日	八代市コミュニティカフェ KOKIN(八代市松江町)	妊婦から子育て中の母親さんが対象のお茶会とおんぶ紐の体験会
6月26日	やまみ子ども園(熊本市東区広木町)	骨盤ケア体操、育児相談、おっぱいマッサージ、ハンドマッサージ、沐浴、足浴、などの癒しサロン
6月28日	保健福祉センター かがやき館(熊本市北区植木町)	参加者同士が、体を動かしたり、コミュニケーションがとれる遊びを入れた癒し交流会
7月6日	yoga shala mana(熊本市東区広木町)	第1回おにぎりと味噌汁の会、母乳による食事を提供、授乳相談、育児相談
7月16日	熊本市現代美術館(熊本市中央区上郷町)	ママタレントのくわばたりえさんを迎えた、笑顔してくれるトーク
7月30日	コミュニティスペース as a café(熊本市東区山内「あやの里」内)	体操で体をほぐしたり、アロマでリラックス
8月27日	コミュニティカフェ COMMUNE6(熊本市東区戸島西)	耳づぼシェリーの体験を通じ、体の発達、心の愛着形成などの話
8月31日	熊本市東区秋津レイクタウン内	第2回おにぎりと味噌汁の会、母乳による食事を提供、授乳相談、育児相談
9月22日	熊本市流通情報会館(熊本市南区流通団地)	育児中ママを対象にした渡部信子先生の講演会(母子の体のケアについて)
9月27日	臨時オケタニ式母乳相談室(熊本市東区秋田町)	第3回おにぎりと味噌汁の会とベビーマッサージ
10月8日	えびすCAFÉ(熊本市東区広木町)	耳づぼシェリーの体験を通じ、体の発達、心の愛着形成などの話
10月16日	阿蘇熊本空港ホテル「エミナース」(上益城郡益城町)	「子育て応援カフェ bee happy」の小児科医 江崎真澄さんの「お母さんが楽になる子育て」の講話と助産師による癒し、語り場のイベントを開催(益城町)
11月6日	「リフレッシュ・ハッピーアワー」in 熊本(リストラン・ミヤモト地元酒蔵の蔵)	被災母子・女性を支援する従事者たち(熊本県助産師会に属する助産師、男女共同参画センター職員、子育て支援団体の運営者)を対象に、支援活動の振り返りと進捗報告
11月23日	リゾラテラス天草(上天草市松島町)	初の天草での開催。お母さんたちを癒す時間を過ごすアートとファッションのコラボイベントを開催
11月24日	「LADY TALK」in 熊本(熊本市男女共同参画センター、熊本市中央区黒髪)	ジョイセフのI LADY.アクティビストを迎え、お子さんを持つお母さんたちとのLADY TALKと健康美ウォークのイベントを開催
12月8日	ややの湯(熊本市北区植木町)	温泉施設での初めての開催。足正式やはぐしのマッサージで母親たちを癒す企画
12月21日	コミュニティスペース as a café(熊本市東区山内「あやの里」内)	熊本出身のインテリアリスト津田晴美さんを迎えた講演活動
1月18日	えびすCAFÉ(熊本市東区広木町)	水だけで離乳食ができる米粉の離乳食講座を開催
1月27日	ややの湯(熊本市北区植木町)	わらべうたで、おうちから出にくい寒い季節を乗り切ってほしいとわらべうたの講師をゲストに企画
1月28日	熊本県助産師会館(熊本市中央区本山)	漢方サロンの先生による「笑顔溢れる子どもたちの育て方」の講演

2016.11.24 LADY TALK in 熊本

ジョイセフのI LADY.アクティビストの協力を得て、熊本市男女共同参画センター(はあもにい)との共催で、「LADY TALK」イベントを開催し、おもに地震発生時に妊婦だった方々が50組参加しました。
授乳服メーカーを起業した光畠由佳さんによるトークショーと、ボスチュアリストの岡野真美さんによる、子育てママの美しい姿勢と歩き方のブレッソンのイベント内容を通じ、参加者に「笑っているお母さんが増えれば、熊本はもっと元気になる!」というゲストのメッセージが深く胸に届き、大好評を得ました。



母子の
楽しいイベントも
開催しました

地震後、イライラ
することが増えて、子どもに
八つ当たりしている自分が
いやだったけど、みんなと話せ
て、つらいのは私だけじゃな
いんだと思えて、気持ちが
落ち着きました。

Nさん(30代)

少し遠かったが
思い切って参加してよ
かった。子どもも喜んで
いて、一緒に笑顔にな
ることができた。

Sさん(30代)

八代市で
被災して、避難所に行った
ものの、プライバシーがなく、床も固
かったため、開放されていた近くのサー
ビスエリアに行って寝ていました。その後実
家のある熊本市へ戻り、熊本県助産師会館で
開催された「癒し交流サロン」に参加しました。
それまで一人で考え込んでばかりいたのですが、ほかの参加者の方々と話ができることが本
当によかったです。なにかやってみようと思
えましたし、考え方を変えることで視野が
広がるのだとわかりました。

Tさん(40代)

交流サロンに参加した ママ達の声

※一部をご紹介します

不安だった
子育ての相談や
生活情報が聞けて
よかったです。

Yさん(30代)

震災時は全く想像し
ていなかった、今こうしてこ
の場にいること、この子と笑い
歌えることに感謝です。
何が起こるかわからない時代で
すが、赤ちゃんをしっかり抱きし
めながら、これから子育ても
楽しんでいきます。

Kさん(30代)

癒し交流サロンに参加し
て、子育てをする同じ立場の方々
と交流できたことがよかったです。
子育てをする中での悩みや子育ての工
夫を聞くことができて、とても有意義な時間
を過ごすことができました。家にいても話をす
るのは赤ちゃんばかり。だから多くの方と話
をし、ママ友ができることで気分転換にな
りましたし、とても安心できました。自分と
子どもの間わり方にも気持ちの
変化が起きたと思います。

Tさん(40代)

震災後、
母乳が詰まりそうな
食事が多かった。
食事内容を考えるいい
機会になった。

Oさん(30代)

震災時、
生後1ヵ月だった娘を連
れて初めて外出しました。
皆さんの体験話を聞き、つら
いのは自分一人ではないこと
がわかり、ほっとしました。
楽しかった。

Eさん(30代)

Hさん(40代)



子どもも参加できる
イベントって、
とってもありがたい!
参加してよかったです~

おんぶ紐の
つけ方ひとつで、
育児中の姿勢も
良くなるのね~



「元気に過ごすためのヒントをもらいました」「ママも一人の女性として自信を持って美しくありたいと思いました」「小さい子を連れたお母さんがたくさんいて、大変なのは自分だけじゃないと思いました」「パワフルなお母さんたちに会えて刺激になりました」などと、参加者から多くの前向きな声をいただきました。

03 熊本の声

助産師さんやサポーターが大活躍
被災した母親たちも、誰かのためにと
立ち上ってくれました。

② 助産師・サポーターの声

震災時の母親には、赤ちゃんを守らなければ、家族を守らなければ、という2つの使命感が生まれます。しかしその思いによって、自分が大変だとは言えなくなってしまいました。熊本地震では、熊本県助産師会の助産師たちが避難所を回り、赤ちゃんのいる家庭を訪問しておっぱいマッサージや話を聞くなど、細やかなケアにあたってくれました。母親と話をする際には気持ちに寄り添い、思いをはき出せる雰囲気をつくることを心がけたそうです。家庭訪問は必要に応じて2度実施。1度目では話せなかつた人でも、2度目の訪問時にたくさん話を聞いてもらい、心が穏やかになった、という声が多く寄せられました。



一方、自らも被災していながら、「母と子の癒し交流サロン」などでボランティアとして参加してくれた母親もいました。人が喜ぶ姿が自分を元気にしてくれる、そこへ行けばほかの母親たちと話ができる、という想いでした。支援しているようで、その場や参加者から元気をもらっているという“お互い様”的感覚。友達になっていく母親たちを見ていて、心がつながっていくのがわかったと言います。



また、そんな助産師さんと母親が共に活動する「おにぎりと味噌汁の会」も立ち上りました。避難所での食事はパン、カップ麺など防災ご飯が中心。これでは体のバランスが崩れてしまいます。そこで日本食の基本でもあるおにぎりと味噌汁で元気になってもらおうと始まったのです。助産師さんによる家庭訪問の報告書では、熊本地震の影響で母乳トラブルを抱える母親が多いという内容が見られました。ご飯をきちんと食べられないことが、赤ちゃんにしっかり母乳をあげられないのでは、と自責の念を生んでしまうこともあります。この会は、おいしいおにぎりと味噌汁を食べながら母親同士が気持ちを出し合い、情報交換をする場としても機能していました。

そしてこれから。今回、性暴力やDV被害を防ぐための避難所キャラバンなどで活動していただいた「熊本男女共同参画センターはあもにい」の担当者によると、復興が進むにつれて、母親たちのニーズが変わってきているそうです。それが自分たちの明日を考えていく中で、ニーズが多様化してきているのです。しかし、多くの支援者、参加者の声には「母親たちがいつでも集まれる場所が普段からほしい」「交流サロンのような場所が今後も続いている」という内容が多くあります。ではどのような場をどう設け、運営していくべきか。熊本の女性たちが本当に笑顔で暮らせる日のために、そこを考える時期に来ています。

支援活動を支えてくれた 熊本サポーターの声

ママたちは、避難所が男女共同というだけでも気を遣うことになり、母乳の出が悪くなるなど、メンタルに影響が出ていました。産後に頼るはずだった人たちが頑張っている中で自分だけ甘えることなんてできない。そうして不安な気持ちを抱えたまま過ごす毎日はとてもつらく、悲しいものだったと思います。

Nさん(30代)

交流する場を設けられることで「あそこに行けば誰かと話せる」「参加したことで多くの人とつながれた」など、ママたちにプラスの気持ちが生まれ、それが大変な時期の心の支えとなっていたようです。災害時だけではない、いつでもママたちが集い、情報交換できる場の必要性を痛感しました。

Mさん(40代)

交流サロンに参加したことで気持ちが楽になった、それまで一人で考え込む毎日だった、と話してくれたママがたくさんいました。つらい思いをはき出す場所がなければ、それはママたちの心に溜まり、いつか別の形で噴き出します。だからこそママたちが気持ちを外へ出せる場所がとても重要だっただと感じています。

Iさん(40代)

震災後、多くのママが気を張った状態で不安な日々を送っていました。会があっても、一人だけ楽しむことに遠慮を感じるママもいます。子どもと一緒に楽しめる会を催したことで、母子とも笑顔になれ、参加したことが前を向くきっかけにもなったようです。自立を意識した支援を続けていきたいと思います。

Wさん(40代)

04 これからのために



熊本地震から1年半。

これからの熊本のために、そして次の災害に備えて、私たちが考えるべきこととは何でしょうか。

今回、ジョイセフが助産師の家庭訪問による産婦・乳幼児支援活動を実施するにあたり、いくつかの課題がありました。この支援活動は、市町村が実施する生後4ヶ月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供等を行う乳児家庭全戸訪問事業の一環として実現したのです。熊本市はもともと乳児家庭全戸訪問事業を熊本県助産師会に委託しているため、助産師による家庭訪問が実施することができ、乳幼児の育児相談や産婦の心のケアも可能となりました。

一方、熊本市以外の被災地（益城町、南阿蘇村、西原村など）では、乳児家庭全戸訪問事業は各市町村自治体の担当部署が実施していたため、今回の助産師による家庭訪問支援活動は行政の了承や委託がなければ、立ち入ることができませんでした。ところが、各自治体は避難所での住民対応等の業務に追われており、実質的に乳児家庭全戸訪問事業は後回しになっていました。また、個人情報保護の観点からも、家庭訪問の対象住民の情報を自治体から入手できずにいました。のために、助産師の家庭訪問による産婦・乳幼児支援活動を実施するにあたり、各被災自治体との調整に時間がかかり、思うように支援活動を進めることができませんでした。

こうした背景のもと、助産師による家庭訪問支援活



動は最終的に、熊本市をはじめ、益城町と嘉島町の女性と母子を対象とすることになったのです。

また、被災した妊婦にとって最も不安なのは胎児の成長です。災害時の健診で胎児の無事が確認できれば、不安を軽くすることができます。今回、災害に遭った妊婦がかかりつけではない避難先の病院での健診を拒否され、やむなく、この産院で出産することを虚言し健診を受けることができた事例がありました。

これらの事例を踏まえ、これから災害のためにどうすべきか。そこで見えてきたのは、以下の4つのポイントです。母子のために、今後も考え、行動し続けなければなりません。

POINT

1. 災害時の避難所では、妊婦や母子が利用しやすい環境を整備する。
2. 災害時の状況調査から、避難所ではなく、在宅避難している妊婦や母子にも必要な支援物資が届くようなシステムの構築をする。
3. 母子健康手帳には、災害時に妊婦がどのような行動で避難したらよいかということに関わるマニュアル内容の記載を提案していく。
4. 母子健康手帳のデジタル化を目指し、災害時にどの医療機関でも妊婦や胎児の成長や状況が把握できるようにし、妊婦の不安を軽減する。

ご寄付あるいは物資のご支援をいただいた企業・団体の皆様の一部をご紹介し、改めて感謝の意を表します。

寄附金・支援金をいただいた企業・団体（五十音順）

カンガルー宮前子育てねっとわーく
(株)銀座千疋屋
向南幼稚園父母の会
(特非)国際協力NGOセンター
国際協力機構 北海道国際センター
国立病院機構九州医療センター 附属福岡看護助産学校
女子カーリング 北海道銀行フルティウス、ロコ・ソラーレ北見
Studio navel タカダナツコ
(株)千疋屋 織本店
(株)ダッドウェイ
Wクリニックフォーマザーズ幕張
チーム100 タカラ
(株)テーマテール千疋屋
(株)十勝野フロマージュ
(株)ナカノオート
(株)ビズホープ
HiPs
ファミリーヨガ ワイオリマキ
(社)フェミニンリーダーズ
フランスのごはん Cream
(財)ベネッセこども基金
(株)ボーラスター
マムズ・ラブ・ジャパン
(社)ミスユニバースジャパン
三養樹脂(株)
やすらぎチャリティー
(社)ランガール ランガールナイト9/3分
(株)レガティ
ローリタッチケア協会
《その他》
阪急阪神百貨店うめだ本店 イベント会場参加者
被災女性支援チャリティー ピンキーリング購入者
および157名の個人支援者

物資をご支援いただいた企業・団体（五十音順）

(株)ダッドウェイ
マリエン薬局自然療法ショップ
ロクシタンジャポン(株)
THREE

熊本地震被災女性・母子支援 収支報告

寄附金・支援金・チャリティイベント等による
事業活動収入 計

5,165,283円

【支出内容】

助産師の家庭訪問による産婦・乳幼児支援活動	1,557,144円
母と子の癒し交流サロン活動	2,357,293円
避難所等での性暴力防止啓発活動	174,678円
心の癒しギフト提供および支援活動に関わる広報・報告活動	426,275円
業務管理費	649,893円
支出計	5,165,283円